

www.neofactory.co.jp

NEO FACTORY®

カスタム、点検・修理、車検、パーツ・車両販売、オーバーホール、ワンオフ製作、輸入/販売

DRAG ON
http://drag-on.jp/



FLH

1979

FXS
1980

NOW ON SALE



ベース車両
DRAG ON リビルド車両
エンジン、ミッションOH済

300V² Factory Line
Drag On にて取り扱い開始



MOTUL より new リリース
新世代フラッグシップモデル



イオンレイクタウンより 4.7 km
東京外環自動車道、草加 IC より 5.0 km
東京外環自動車道、三郷西 IC より 3.1 km
〒340-0002 埼玉県草加市青柳 3-4-28
TEL: 048-931-1800 FAX: 048-933-7566
10:00-20:00 定休日: 毎週水曜日

FRONT LINE TOPICS

New Products for Milwaukee Eight From TRIJYA

文=渡辺まこと text by MAKOTO WATANABE 写真=伊藤潤一郎 photographs by JUNICHIRO ITO
取材協力=トライジャ phone 072-970-3110 www.trijya.com



最新H-D、ミルウォーキーエイト用 パーツ群がトライジャから早速登場

2017年にツアラーモデルが先行して販売され、2018年からは新型ソフテイルが登場することでH-Dビッグツイン全モデルとなったミルウォーキーエイト。4バルブヘッドが採用されるこの最新H-D用パーツが早速、トライジャから続々とリリースされることになった。

本誌40号のトピックスのコーナーにて同店が導入した3Dスキャナーについて紹介させて頂いたが、今回のプロダクツはまさにソレを駆使し、開発されたもので、ノーマルにフィットする精度の高さがウリのひとつ。ご覧のとおり新型ブレイクアウトのタンクやフェンダー、フレームなどに文字通りパチッとボルトオンで装着可能だ。

最新モデルという素材に最先端の技術を注ぎ、早速生み出されたプロダクツの数々を前に思う……時代がこの先、変わろうともカスタムを楽しむ心は変わらないのだと。



本文中でお伝えしたとおり、最新の3Dスキャナーでノーマルを正しく数値化し、開発されたトライジャ・オリジナルパーツの数々は、ノーマルの外装にフィットする精度の高さとデザイン性がウリ。各パーツに関する価格や対応車種、詳細については同店までお気軽にお問い合わせを。



Sun motorcycles Sora

文=宇保良男 text by YOSHIO UHO 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力=サンモーターサイクルズ phone 082-296-0330 <http://www.sunmotorcycles.jp/>

今となっては決して珍しいことではなくなったハーレーの女性ライダー。そのユーザー層に対して足つきの良さであったり取り回しのし易さを考慮したモデルもリリースされるが、ここで紹介する一台も女性オーナーということで、カスタムベースとして選択されたのは低いフォルムを基調としたXL1200L。その特性を生かしたチョッパーとなっている。

全体的なカスタムの方向性として女性らしさを意識したというが、ユーロ的なニュアンスを匂わすワンオフで製作され

た曲線状のフューエルタンクなどはそういった空気感が存分に現れている点だろう。それに合うように、低く手前にセットアップしたワンオフのハンドルバーも、ルックスも当然ながら無理のないライディングを可能としたもの。乗り手を考慮しつつも、カラーリングも含めトータルでバランスよく仕上げているあたりは、ビルダー青木のセンスの賜物である。

手数は少なくとも、魅せ所でしっかり魅せる。テーマ通り温かみのあるそのルックスは、素直に好感が持てる一台だ。



①美しいラインを描くフューエルタンクはサンモーターサイクルズのワンオフ。オフホワイトの温かみのあるペイントワークはN2オートが担当した。②マフラーはシンプルながらホンタイプがセレクトされている。③リアフェンダー、テールランプとも同店のワンオフ。ユーロチョッパー的な雰囲気に良くマッチしている仕上がりが、

もともとの低い車高に加えワンオフのハンドルなどのセットアップも操作性は抜群だ。



①パンヘッドスタイルのヘッドカバーの他、エアクリナー、ブレーキペダル、フットボードなどには刻美パーツを使用。②ホールド型抜群なシートはワンオフ。クロス柄のステッチが入りムードを盛り立てる。③プライマリー周りやダービーカバー、ホンカバーにも刻美デザインが落とし込まれ美しさが増した。

レジェンドのエアサスが組み込まれ極限までローダウンされた迫力のフォルムを構築。

70年代以降の新世代チカーノたちがこぞって創り始めたことがはじまりと言われるチョロスタイル。彼らのネーミングを冠したそのカスタムは、現在コアなフリークから熱い支持を得ているが、今回トライジャが製作した一台もまさにその王道的なスタイルへと創り込まれたものである。

左右から伸びたSamsonのフィッシュテールマフラーや、ワンオフで製作され絶妙なカーブを描くハンドルバーなど、やはりチョロスタイルを形成する上でその派手な演出が目

がいくが、それだけでなく散りばめられた細部のパーツにも拘りがふんだんに盛り込まれているのも見逃せない。ブレーキペダルやフットボードにははじまり、プライマリー周り、カバー類やエアクリナーなどいたるところにオリジナルデザインであるType2柄の刻美パーツをふんだんに使用。純正パーツとうまく織り交ぜることで、芸術性を高めたルックスに仕上げているあたりはさすがトライジャといったところだ。

ワルさと美しさ、その両面を纏う極上の一台である。

文=宇保良男 text by YOSHIO UHO 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力=トライジャ phone 072-970-3110 <http://www.trijya.com>

TRIJYA TRIJYA-Chicano

